

プログラム番号	06052
---------	-------

平成 18 年度「国費外国人留学生（研究留学生）の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 琉球大学 理工学研究科		
②学長名	森田 孟進		
③所在地	〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	工学部・学務担当 専門職員	
	担当者氏名	平田 武	e-mailアドレス kggakumu@to.jim.u-ryukyu.ac.jp
	電話・FAX番号	Tel.:098-895-8593 / Fax:098-895-8590	
⑤ホームページURL	http://www.u-ryukyu.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	124人（うち、国費留学生 81人）		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	アジア太平洋工学デザインプログラム
②プログラムの形態	博士前期課程+博士後期課程（2+3年間）
③実施研究科・専攻	理工学研究科・総合知能工学専攻
	（所在地）〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地
④連携大学・研究科・専攻名	琉球大学大学院 理工学研究科 <博士前期課程> 機械システム工学専攻, 環境建設工学専攻, 電気電子工学専攻, 情報工学専攻 <博士後期課程> 生産エネルギー工学専攻
⑤受入れ学生数	博士前期課程 5 人（うち研究留学生優先配置人数：博士前期 3 人） 博士後期課程 4 人（ " " : 博士後期 2 人） （うち日本人学生数： 2 人）
⑥担当教員数	合計 76 人（うち専任： 75 人、兼任： 1 人、非常勤： 0 人）
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学部・教授
	研究科長名 宮城 隼夫

【3. プログラムの内容】

1. プログラムの目的

本プログラムの目的は、主としてアジア及び太平洋地域の途上国々からの留学生と国際的な活躍が期待される日本人の学生を受入れ、ハイテクだけに頼らず、地域の自然及び社会環境に基づいて工学的解決が必要な問題を自らの力で考え、解決の方向を見つけることのできる、知識・技術・感性の調和のとれたグランドデザイン能力を持つ技術者・教育者・研究者を育成することである。

2. 博士前期課程の内容

博士前期課程においては、主として高度な専門知識や技術の導入部分について、社会環境まで含めた広い視点から教育し、研究指導する。具体的な教育研究は下記の4専攻において行われる。

- (1) 機械システム工学専攻：機械材料、材料力学、エネルギー、制御、加工に関する教育研究
- (2) 環境建設工学専攻：自然環境と人工環境の調和・共存・保全・防災に関する教育研究
- (3) 電気電子工学専攻：電力システム、電子デバイス、制御システム、通信に関する教育研究
- (4) 情報工学専攻：人間の知能、コンピュータ、通信ネットワーク、メディアに関する教育研究

3. 博士後期課程の内容

博士後期課程においては、高度な専門知識を教育し、専門技術に関する高度な研究指導を行うとともに、将来、修了者が指導的立場に立つことを予想して、教育者や高度技術者に求められる広範な社会的知識や倫理についても教育する。具体的な教育研究は下記の2専攻において行われる。

- (1) 生産エネルギー工学専攻：材料強度、加工技術、エネルギー、建設構造、防災に関する教育研究
- (2) 総合知能工学専攻：制御、人工知能、都市・建築・環境計画、信号処理、情報に関する教育研究

4. 教育・研究の指導體制

- (1) 1人の学生に対して、主として研究を指導する主指導教員を1人設定する。
- (2) 博士前期課程の学生に対する主指導教員は教授または助教授、博士後期課程の学生に対する主指導教員は教授とする。
- (3) 教育研究に関しては、日本人学生も含めてすべて英語を用いる。

5. 留学生の募集方法

- (1) 募集対象国は、主としてアジア諸国及び太平洋島嶼国とするが、限定はしない。
- (2) インターネットホームページ上での募集案内を充実させる。
- (3) 琉球大学と協定を結んでいる大学に対して、特に積極的にメールや郵便で案内する。

6. 研究留学生の選考方法

- (1) 学歴、英語能力、健康状態等は書類審査とインターネットを通してインタビューにより行う。
- (2) 博士前期課程の学生の選考においては、大学学部課程におけるGPAにより順位をつける。
- (3) 博士後期課程の学生の選考においては、大学院博士前期課程または修士課程におけるGPAを評価するとともに、既報の論文等の研究業績を評価して順位をつける。
- (4) 出身大学との交流協定の有無や出身国のバランス、志望動機、推薦書の内容も順位に反映させる。

7. 点検・評価の体制

研究科内に特別プログラム運営及び評価委員会を組織し、選考方法、教育体制、成績評価、研究体制、学位論文、学生支援、国際評価、国際交流等の観点について年度ごとに評価し、自己点検評価書を作成する。さらに、外部有識者による特別プログラム諮問会議を設置して、外部評価を依頼する。

本プログラムの最終年度には、特に本プログラム全体の成果として、アジア太平洋諸国との人材育成ネットワークの形成、修了生の適切な進路の確保、国際的な評価、大学の国際化の促進や国際交流への貢献等の観点から、自己点検評価を行い、その結果について外部評価を仰ぐ。

8. 期待される成果とフォローアップ体制

本プログラムの修了者の進路として、製造業、建設業、エネルギー関連、通信事業等における技術職及び研究職、技術系及び研究系公務員、大学等高等教育機関における教育者及び研究者を想定している。修了者は基本的に修了後に帰国し、上記のような立場において、自国の状況に適合した工学技術を普及、発展あるいは創出し、自国の発展のために貢献することが期待される。

本プログラムにより、日本及び琉球大学と留学生を送り出した諸外国及び諸機関との交流及び人的ネットワークを高密度に形成することが期待される。それを維持するために、修了生に対して常に連絡できるフォロー体制を整え、最新の情報交換を継続的に行う。そのような交流に基づいて、技術的なバックアップを行うだけでなく、国際的な共同研究等に発展させることが期待される。